

ブックスタート事業の復活を求める請願

令和3年2月22日

青森市議会議長 長谷川 章 悦 様

青森市大野若宮 165-19  
新日本婦人の会青森支部  
支部長 北 田 文 子

紹介議員 万 徳 なお子

(請願の趣旨)

新日本婦人の会は、女性の要求実現と子どもの幸せ、平和と暮らしの向上を目指し、全国で運動している国連NGOの女性団体である。

ブックスタート活動をサポートするNPOブックスタートのホームページによると、「ブックスタートは、0歳児健診などの機会に、絵本をひらく楽しい『体験』と『絵本』をセットでプレゼントする活動です。抱っこぬくもりの中で絵本を読んでもらう心地よさや嬉しさを『すべての赤ちゃん』に届けます。赤ちゃんの幸せを願い、行政と市民が連携して行う自治体の事業です」とある。

青森市では2005年8月からブックスタート事業を開始し、4か月健診の際にブックスタートパックを配付し、その場で読み聞かせも行っていた。ブックスタートパックの購入費は、令和元年度は年間で158万7492円であった。

青森市は、2020年4月からブックスタートパックを4か月健診で配付する事業を廃止してしまった。「今回は何の絵本がもらえるかな」ととても楽しみに健診に出向いたある保護者は、ブックスタートが廃止されたことを知り、大きなショックを受けた。健診で絵本をもらった経験のある保護者たちからも「予算を削るところが間違っている」などの声も上がった。

NPOブックスタートのホームページでは、ブックスタート事業を開始して2年が経過した青森市で、ブックスタートに関わっている方々の座談会の様子が掲載されている。そこには「ブックスタートの様子を見ていると、やっぱり子どもは絵本が好きなんだと感じます。家のどこかに絵本があると、子どもは必ず手を伸ばすけれど、それがあかないかでは、やはり大きな違いがあります。だから、そういう環境をすべての子どもの周りに整えてあげるといことは、大人の大切な役割だと思うんです」、「絵本を開くひとときの楽しさを、赤ちゃんという早い時期から、もれなく伝えることができるというところに、やりがいを感じますよね」という司書の方々の声が紹介されている。

身近に本がある生活の入り口として、そして親子の触れ合いを育む意味でも、全ての家庭に本が配られるブックスタート事業は、子どもたちや子育てをする保護者にとってとても大切である。

以下のことを求める。

(請願事項)

乳児健診時にブックスタートパックを配付するブックスタート事業を復活すること。